

東部大阪都市計画ごみ焼却場四條畷市交野市ごみ処理施設整備事業に係る  
環境影響評価準備書に対する意見の概要(知事に対して提出されたもの)

○生駒市と近接した地域への建設計画であり、生駒市側は大規模な住宅地や小・中学校も多く存在し、特に冬場は北東よりの風に乗って粉じん等、有害であると考えられる物質が生駒市側住宅密集地に流入することは明らかで、生駒市北西部住民にとっては受け入れ難い立地であるため、即時撤回、候補地の再検討を求める。

○準備書の記載内容について、PM<sub>2.5</sub>に関して記載されているか不明確であり、以下について回答を願う。

- ・沿道環境の浮遊粒子状物質の測定値にPM<sub>2.5</sub>は含まれているか。
- ・そもそも焼却炉からPM<sub>2.5</sub>は発生しているのか。データがないなら現状の焼却炉で測定し事実を明確にして欲しい。
- ・もし発生しているとしたらそれは計画されているフィルターで除去可能か。実験データに基づいた回答を願う。

○土壌調査及び地下水調査の結果、基準超過した項目、地点が見られ、このように土壌汚染にまみれた土地に、ごみ処理施設が建設される不安は消し去ることはできず、大阪府、四條畷市、交野市、四條畷市交野市清掃施設組合は、このことを十分に認識し、環境保全に万全を期していただきたい。

○土壌汚染の項で、「直接摂取によるリスクの観点からの環境保全対策としては、現状の土については、10cm以上のコンクリート、3cm以上のアスファルトもしくは50cm以上の非汚染土で覆土し、露出させないことから、土壌汚染による影響はほとんどないと予測される。」と記されているが、大阪府環境影響評価審査会に答えたとされる「法規制値よりさらに厳しい施設の環境保全対策を講じる」との内容との整合はどのように図るつもりか。少なくとも非汚染土による覆土を1メートル以上にするなど、法規制値（環境省令基準）よりさらに厳しい環境保全対策に努め、将来不安の除去に努めていただきたい。

○調査で明らかになった土壌汚染は、建設予定地内においてさらに広範囲に広がっている可能性があり、掘削工事によって発生する発生土の中に有害物質で汚染された土壌が含まれる危険性が予見できる。このことは、コンクリートやアスファルト等についても同じことがいえる。発生土及びコンクリートやアスファルト等の再利用について、その全量において有害物質による汚染の有無をチェックするとともに、汚染土壌や汚染されたコンクリート等の廃棄物については、有害物質等の完全除去を含めた具体的な環境保全対策が準備書に明記され、措置が講じられるべきであると考え、この点、強く要望する。

○建設工事に伴う問題

- ・現地の地盤は砂利採取後の廃棄物等の埋戻地であり、コンクリートパイルの打込等の地盤改良工事を必要とすると思われるが、そのことの記述、評価、対策がない。
- ・土壤汚染対策法上「形質変更時要届出区域」であるが、実態は「要措置区域」ではないか。
- ・これらの問題により、準備書に記述されていない人体に重大な影響のある環境汚染が懸念される。また、現地周辺は大阪府下に残る数少ない野生生物の生息地であり、これらの種への影響及び市大植物園への影響が懸念される。

○操業開始後の汚染問題

- ・TVOCに関する調査及び環境への配慮がなく、「杉並病」及び寝屋川市廃プラ処理施設周辺で起こっている健康被害を認識していない。健康被害は未知の汚染物質からも惹起されるが、その評価、対策がない。
- ・地下水への土壤汚染物質溶出の可能性を認めながら、影響なしと強弁している。念のためとはいえ井戸水の使用を止め、上水を供給する計画がそのことを物語っている。また、舗装面に降った雨水は、低度処理の後、天野川に放出する計画で、汚染物質の舗装面への付着、流出及び、舗装面劣化による浸透、溶出を考慮していない。

○準備書の評価

- ・全体として、「此処に建設ありき」を前提とした準備書で、建設には周辺住民の納得同意が不可欠であるが、周辺住民として納得できない。

○第2京阪道路建設にあたり、二酸化窒素濃度の増加について事業者が行った環境影響評価の予測に対し、供用開始後の沿道測定局の二酸化窒素の測定結果を比較したところ、二酸化窒素濃度の増加について事業者が住民に説明してきた予測を超えている。第2京阪道路建設にあたって行った環境影響評価と同じ手法で二酸化窒素（窒素酸化物）の濃度予測をしたとするならば、本件アセスの評価は疑問があり、予測手法が適切であるかどうか説明されたい。この点で、他の事業における二酸化窒素（窒素酸化物）のアセスにおいて、今回、用いられた手法と同じ手法で行われた予測が、供用開始後の測定で妥当であるかどうかを検証した結果を示して、予測の妥当性を明らかにされたい。

○PM<sub>2.5</sub>を予測項目に加え、それらの大気中での増加の予測と評価を行われたい。

○オキシダントを予測項目に加え、それらの大気中での増加の予測と評価を行われたい。

○国道168号では、歩道が無く道幅が狭小な部分が多くある。ゴミ収集車の走行台数が増加すると、すれ違いのために走行速度をゆるめたり、ハイキング客を避けるために反対車線にはみ出したりして非常に危険でもあり車の流れが停滞することで車の排ガスの排出量が増加すると予想される。環境の悪化もさることながら通行の危険性を低下させるため、道路の拡幅と歩道の設置を要望する。

○施設内で使用された水は施設外へは排出しないと聞いているが、場内に降った雨は、地表や地下に浸透し、水路等を通して天野川に流れてしまう。天野川の下流では、河川水を汲み上げて農業用水に利用しており、場内に降った雨に溶け込んだ有害物質を含んだ雨水が天野川に流れ込み、その影響で農作物に被害を及ぼすことの無いよう、また、その農作物を食べた人に健康被害が出ることの無いよう、計画地内の土壌の入れ替えが必要と考える。